

## 社会福祉学部 学部基幹科目（2021年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	科目概要
			建学の理念に基づき、自己覚知、他者理解のための教養と専門知識、多様な人々とともに生きる知識と作法を身につけている	人間の共同についての歴史的な理解と現代社会における福祉の意義と課題をとらえ、社会のさまざまな領域で活かすことができる実践力を身につけている	社会問題への認識を深め、他者を共感的に理解できる姿勢をもち、個人の尊重や社会正義を理解し、社会生活のさまざまな分野で活かすことができる	市民として、差別や抑圧のない平和で安全な社会に関する知識と教養を身につけている	
学部基幹	現代の社会問題	1	○		◎	○	社会福祉学の学修の基礎となる社会問題への視点を、身近な課題—貧困、孤立、虐待、生活不安などを通して学んで行く。社会問題の社会的背景・要因をふまえて、人権侵害、また個人の主体的力と関係の形成からもとらえ、社会問題への福祉的なアプローチの視点と方法を考える。
	福祉とケアの倫理	1	◎	○	○		ケアとは一般に介護や育児、世話をすると行った行為をさすが、そこには「する側」と「される側」との相互の関係が生じている。本講義では幅広いケアの実際を取り上げ、人間の生とのつながりにおいて、キュア（治療）とは異なるケアの概念の多義性について理解を深める。同時に福祉におけるケアの倫理、価値、思想とは何かについて考察する。
	人権と福祉	1	◎	○		○	人権とはなにか、個人の権利とはなにかを、その歴史的な形成過程と国際的な人権規定や日本国憲法の意義を確認しながら学ぶ。また、人権が尊重される社会とはどのような社会であるかを、身近な社会的課題から考え、民主主義や社会システム、社会福祉の意義をつかみ、市民としての自覚を高める。

社会福祉学科 専門科目 (2021年度以降第1学年次入学者適用)

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	科目概要	
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている		
学 科 基 礎	社会福祉入門ゼミ	1	○	◎				大学入学後、最初に履修するゼミであることから、自律的な学びに必要となる基本事項（課題に応じた情報や文献の検索、レジュメの作成、読解及び内容の要約、ディスカッション等）を取り上げる。この授業の内容は、4年間にわたる大学の学びの基盤となるものであり、各自の自学自習を進めるための必須事項でもある。	
	社会福祉原論	2	◎				○	社会福祉とは何か、その対象とはどのようなものなのかについて探求することを目的とする。社会福祉の対象となる具体的な社会問題の諸相を理解し、当該の社会問題が生み出される社会的背景・要因をふまえて、問題の軽減・除去に向けて何が必要なのか、その援助過程において尊重すべき価値・理念とは何かについて総合的に検討していく。	
	社会福祉史	2			◎			○	現在の社会福祉がどのようなプロセスを経て形成されたのかを、様々な要因と関連づけながら学ぶ。個々の事象を詳細に学ぶこと以上に、まずは日本の社会福祉の歩みの全体像を理解することを重視する。その上で個々の事象の歴史的意義について学ぶ。また現在は過去の集積であることから、過去の出来事を過去に閉じ込めてしまうのではなく、それと現在との関わりを重視して授業を進めていく。
	ソーシャルワークの基盤と専門職	1	◎	○					①社会福祉士、精神保健福祉士国家資格制度の成り立ちから制度の見直しを概観し、ソーシャルワーク専門職の法的な位置づけや専門性について考える。②ソーシャルワーク専門職のグローバル定義をもとに、ソーシャルワークの概念、構成要素について考える。③ソーシャルワークの基盤となるソーシャルワークの原理と理念について考える。④慈善組織協会からソーシャルワーク統合化までのソーシャルワークの歴史を概観し、今日のソーシャルワークのモデルやジェネラリスト・アプローチについて考える。⑤ソーシャルワーク専門職の倫理の概念、綱領、倫理的ジレンマについて事例を基に考える
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2	◎	○					ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、総合的かつ包括的な支援を多職種連携の意義と内容について講義を行う。
	ソーシャルワークの理論と方法1	3		◎	○				相談援助（ソーシャルワーク）とは何かを知り、相談援助についての知識や理論基盤と技術・方法について理解を深めることを目的として、相談援助における対象、視点と人間観（価値）、その構造（人と環境の交互作用に関する理論等）、相談援助の構造と機能、相談援助の展開過程、アウトリーチについて理解する。
	ソーシャルワークの理論と方法2	4		◎	○				社会福祉における相談援助（ソーシャルワーク）とは何かについて理解、ならびに相談援助の知識・理論基盤と技術・方法についての理解を深めることを目的とし、相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術、さまざまな実践モデルとアプローチ等に社会福祉における相談援助（ソーシャルワーク）とは何かについて理解、ならびに相談援助の知識・理論基盤と技術・方法についての理解を深めることを目的とし、相談援助における援助関係、相談援助のための面接技術、さまざまな実践モデルとアプローチ等について学ぶ。
	社会福祉援助技術論1 保育	3	○	△	△	△	◎		現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解を深めていく。その際、社会福祉の制度および実施体系等がどのように展開しているかを把握したうえで、社会福祉における相談援助の理論および機能、プロセスについて学ぶ。
	社会的養護 1	3	◎	○	○		○		現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を理解する。子どもの人権擁護を基盤とする社会的養護の制度と実施体系、その対象と形態、それを担う専門職について学ぶ。これらの学びを踏まえ、社会的養護の現状と課題を考察する。
	教育と福祉	4	○	○	◎				社会福祉は子どもの教育にどのようにかわり、子どもの権利をどう保障しようとしているのかを学ぶ。生活保障制度としての社会福祉は、子どもおよびその家庭への給付・サービスを通じて子どもの教育権を保障する。また子どものかかえる生活困難・生きづらさや障がいをとらえて、ソーシャル・ワーク、ケアといった援助実践を通じて、子どもの学ぶ環境を整備する。社会福祉の制度、援助実践は教育とどう関連するのかを明らかにする。さらに子どもの成長・発達や生活、環境などについて、社会福祉はどのようにトータルにとらえようとしているのか、社会福祉の固有の視点にいても学ぶ。
	社会福祉法	3					△	○	社会福祉にかかわる主要な法制度について、その概要、仕組み、権利義務構造を把握することを目的とする。同時に、社会福祉法の大系を概観し、主たる制度相互間の整合性や現下の課題を可視化して認識し、問題意識を涵養する。
	社会保障論1	3	◎				△	○	現代社会において社会保障はどのような役割を果たしているのか、国民の暮らしや経済の動きとどのように関連しているのか、そもそもなぜ社会保障が生まれ、どのように変化してきたのかなどについて取り上げ、現代社会における社会保障の意味と役割を考える。
	社会保障論2	4	◎				△	○	社会保障を構成する各制度は、そのような仕組みをもって、どのような役割を果たしているのか、国民の暮らしや経済の動きとどのように関連しているのかなどについて取り上げ、社会保障の各制度の意味と役割について考える。
高齢者福祉論	2	○		◎				本講義では高齢社会における明るい長寿社会の実現に向けて、私たちが直面している問題や高齢者の生活実態について明らかにする。そして、高齢者支援に必要とされる老人福祉制度及び介護保険制度の概要について学ぶ。さらに国民一人ひとりがどのような高齢社会であって欲しいのか、具体的なイメージがもてるように問題提起していく。また、高齢者福祉の戦前から戦後、そして今日に至るまでの歴史について学ぶ。	
障害児者福祉論	2	○		◎				障害者の生活の実態とこれを規定する社会的環境を把握し、現代社会においてなぜ障害者問題が発生するのかを社会構造と結び付けて理解する。また、それを克服していくために先人達が生み出した理念や基礎概念について理解を深める。そのうえで、障害概念と障害者の定義をめぐる問題、障害者福祉制度の概要など、障害者福祉の基礎概念・基礎知識を習得する。	
児童・家庭福祉論	2	○		◎				現代社会における子どもと家族のおかれた状況とその社会的背景を理解する。子どものニーズや生活課題、子どもと家族のおかれている状況を社会的背景からとらえる視点、その支援のあり方を考えるための視座を醸成する。具体的には、児童福祉の意義を歴史的展開の過程とともに学び、それを支える法律および制度、社会資源を学ぶ。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の見方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でありよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関する知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
学 科 基 礎	貧困に対する支援	3	○	◎	△			近年、富裕層による富の独占が進み、所得格差が広がっている。そうしたなかで日本の「相対的貧困率」はOECD諸国でワーストクラスの水準にある。そして近年は「子どもの貧困」「ワーキングプア」「女性の貧困」「老後破産」が社会問題としてクローズアップされることが示すように、子ども、働き盛り世代、高齢者に至るまで「貧困」は深刻化している。 しかし、その一方で貧困者に対する「自己責任論」は根強く、生活保護利用者に対するバッシングやスティグマが示すように、生存権保障としての生活保護制度に対する理解は不十分な状況といえる。 こうした現状をふまえ、この授業では、①現代社会における「貧困」とはなにか（貧困の概念）、②現代における貧困の実態とそれを生み出す構造、③公的扶助と生存権保障の歴史、④生活保護の目的と原理・原則、⑤生活保護制度の種類・保護基準など具体的内容、⑥福祉事務所の組織運営体制、⑦生活保護ソーシャルワークと「自立支援」、⑧低所得者対策などについて学ぶ。これらの学びをもとに、現代社会における公的扶助制度の役割と課題について学ぶ。
	精神保健福祉の原理1	1	◎	○				わが国の精神保健医療福祉に関する法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービスについて学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとらえて、わが国の精神障害者をめぐる政策的課題について理解を深める。
	精神保健福祉の原理2	2	◎	○				精神障害者のなかでも、濃厚な支援が必要な人にとって必要な支援の法・制度・実践はどうあるべきか、現状の法・制度・実践を踏まえそれらがどのような限界や課題をもっているのかを探る。また、実践者に求められる力の一つに、精神保健福祉の実践現場において当事者や家族のニーズを把握する力がある。当事者が生き暮らすなかで、どのようなニーズをもつのかを知る為に必要となる社会福祉調査法について学ぶ。
	精神保健の課題と支援1	1	○	◎				精神保健の基本的な考え方を理解し、現代社会における精神保健の諸課題のなかで、家族に関する精神保健の課題の理解と支援、嗜癖と依存症に関する課題の理解と支援について、学ぶ。
	精神保健の課題と支援2	2	○	◎				精神保健学としてのストレスを学び、学校教育現場における精神保健の諸課題と支援、労働者の精神保健の諸課題と支援、災害被災者や犯罪被害者、性的マイノリティ、貧困問題から派生する精神保健の課題と支援について学ぶ。
	人間発達論	2	○					ヒトは個体発達のダイナミックな過程を内在させる形でこの世に誕生する。個体発達の過程に伴う障害の発生リスクもそこには当然含まれる。ただし、発達とは個体内部のみで完結するものではなく、集団や社会との関連から検討・把握していく必要がある。本科目では、「正しい」人間の発達過程を論じるのではなく、集団や社会の価値観の観点から、人間が発達するとどのような過程であるのかを、発達・障害・生活・歴史・医療技術といった視点を交えながら考えていく。
	現代家族論	2		◎	○			本科目は、現代の社会福祉を考えるうえで、もう一人の社会問題の当事者としてかんがえなければならない家族について理解を深める。現代家族の特徴を社会構造と結びつけて把握し、そのうえでライフサイクルを通じてどのような生活問題が生じるのかについて実践的に理解を深めていく。その際、「ジェンダー」視点からとらえ直すことで、家族内部に生じている不平等にも目を向け、社会福祉の課題について考察するための視点と方法を身につける。
	仏教福祉論	2	○	○				仏教と福祉に共通する思想や理念および価値を基盤にした仏教慈善・救済活動から、仏教社会事業ないし仏教社会福祉事業までの社会的な活動の総体を把握する
	保育福祉入門	1	○				○	保育学、音楽表現、社会福祉学、心理学、医学などの学問領域と保育との関連を具体的に取り上げる。その際、技術的・方法的な理解にとどまらず、権利意識や倫理観に立脚したケアとして保育が存立していることに気がつくような形で検討していく。
	保育原理	2	○				◎	保育の意義を理解し、保育に関する法令及び制度、「保育所保育指針」における保育の基本について学ぶ。また、現在の保育の背景となる保育思想と歴史の変遷について学習した上で、保育の現状と課題について考察する。
	教育原論	3	○				△	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて学ぶ。教育の思想と歴史の変遷を踏まえ、教育制度及び教育実践の様々な取り組みについて学習する。また、生涯学習社会における教育の現状と課題について考察する。
	保育の心理学	2	○				○	子どもの経験する世界を発達理論や心理学の基礎知識を手がかりに理解していく。指導技術的な内容に重点を置くのではなく、子どもの経験世界に依拠して子どもの発達や保育のありようを考えていく形で学びを深める。
	子ども家庭福祉	2	○				○	子ども家庭福祉の意義および歴史の変遷を学び、子どもの人権擁護に対する理解を深めていく。子ども家庭福祉の制度および実施体系等の具体的展開を学び、現代における子ども家庭福祉をめぐる少子化や虐待、子どもの貧困といった現状および課題を考察する。
	社会福祉学専門ゼミ1	3	○	◎				社会福祉に関する基本文献を精読し、基本的な概念と理論・思想を理解するとともに、あわせて文章表現、論理的な思考、問いの立て方と課題分析の方法などを学び、社会福祉学を専門的に学習していくうえでの基礎的な知識と具体的スキルを習得する。
社会福祉学専門ゼミ2	4	○	◎				テキストの正確な購読および専門用語への習熟をさらに進める。あわせて、レジュメやパワーポイントの作成といったスタディスキルの伸張を図る。ゼミ生相互の議論を通じて、社会科学に特有の論理的思考スタイルを深める。	
ソーシャルワーク演習	3	◎	○	△			ソーシャルワークの価値・倫理の基礎的理解を促し、生活の振り返り、生活史把握、グループワーク、ロールプレイ等、様々な方法を活用した体験的な演習の展開によって、ソーシャルワーカーとなる者の自己形成の土台を構築する。ソーシャルワークにかかわる他科目との関連性をふまえ、ソーシャルワーク実習に求められる力を高めるために、個別指導・集団指導を通して、具体的な援助場面を想定し、事例などを用いて実技指導を行う。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的な権利や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
学科基礎	ソーシャルワーク演習(専門)1	4	○	◎	△			社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行い、対人援助の基本的な視点や方法について、ソーシャルワーク実習の事前学習と関連させながら体験的に学ぶ。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。具体的な事例等(集団に対する事例を含む)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど）、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技指導を行う。さらに、地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技指導を行う。
	卒業研究ゼミ 1	7		○		◎	○	4年間の学びを振り返り、各自問題意識を醸成させ、卒業研究を進める。個別報告をふまえて、ゼミ生同士で議論を行い、さらに問題意識を深めながら切磋琢磨していく。
学科専攻	卒業研究ゼミ 2	8		○		◎	○	卒業研究ゼミ 1 の取り組みを土台に、さらに個別の問題意識を醸成させ、フィールドワークを実施し、その調査結果をふまえて研究活動を活性化させる。その成果は卒業レポートに反映させる。
	卒業レポート	8				○	◎	卒業研究ゼミ 1・2 での学修の成果として卒業レポートを作成する。
	社会福祉学専門ゼミ 3	5		○	◎	○		ニートやひきこもりなどの問題は、青少年問題あるいは若者の問題として捉えるよりは家族内の高齢者を含めすべての家族成員に影響を与える問題として捉える必要がある。 この講義では、以上の問題の他、若者の労働問題や結婚に関わる問題などの実態とその解決方向を学習するが、特に中国・韓国の若者との国際比較の観点から学習する。
	ソーシャルワーク演習(専門)2	5			◎	○	△	これまでに学修したソーシャルワーク演習や実習に関する内容をふりかえり、「ソーシャルワーク実習2」に臨む準備の学修として位置づける。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。社会福祉専門職に求められるソーシャルワーク実践に必要な価値・知識・技術を統合し、学修において理論と実践をつなぐ。具体的な事例等(集団に対する事例を含む)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、これらの事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面と、支援過程（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・支援の終結と自己評価、アフターケアとフォローアップなど）、及び支援における内容（アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなど）を想定した実技指導を行う。さらに、地域福祉の基盤と開発にかかわる事例を活用し、具体的な場面・過程・内容（アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメント、地域福祉の計画、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価など）を想定した実技指導を行う。
	ソーシャルワーク演習(専門)3	7			△	◎	○	ソーシャルワーク実習や演習において、体験的・実践的に学んだ内容を省察するとともに、これまでのソーシャルワークに関する授業の学修内容をふりかえり、個別的な体験・実践をソーシャルワーク理論(価値、知識、技術等)と結びつけて再考する。個別的体験・実践を意味づけ、一般化する作業を通して、実践的かつ学術的なソーシャルワークを習得する。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。
	ソーシャルワーク演習(専門)4	7			△	○	◎	これまでのソーシャルワークに関する授業における学修内容をふりかえり、実践的かつ学術的なソーシャルワークを習得する。ソーシャルワークの演習・実習等で体験的・実践的に学んだ内容を援用・応用し、さまざまな事例を通して、ソーシャルワークにおける基本原理としての人権の尊重、多様性の尊重、権利擁護、生活支援、社会正義などを理解し、行動するソーシャルワーカーとして必要な力を涵養する。社会との関わりの中で、人々の個別的かつ多様な生活ニーズや複合的な生活課題を理解し、分野や領域を横断する総合的・包括的な支援について実践的に学び、ソーシャルワークの課題と可能性を見出す。個別指導・集団指導を通して、実技指導（ロールプレイやディスカッション、事例検討等）を中心とする演習形態で行う。
	教育福祉演習	6		◎	○			教育は福祉と同様、人の一生と深くかかわっている。国内外のさまざまな教育をめぐる問題を広く理解し、学習の場や機会が多様でありかつ重要であることを、学校、地域、行政、家族、専門職などの実践や役割を通じて学ぶ。
	キャリアスタディ	6		◎		○		本授業では、卒業後の進路を考える受講生を対象に、「キャリアとは何か」「キャリアをデザインするとはどういうことか」という問いかけに対し、現代社会や仕事に関するテーマを題材に「主体的に、キャリアと人生を歩んでいくこと」を演習形式で考える。キャリアに唯一の正解はなく、受講生同士の対話やグループワークを通じて自分の考えをみつめ、互いの多様な価値観を学ぶ授業としたい。
	精神保健福祉援助演習1	5		◎			○	精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。具体的には、個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いたり、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的にとりあげ、これらを演習形態により学ぶ。
	精神保健福祉援助演習2	5					◎	○
精神保健福祉援助演習3	7				○		◎	障害福祉サービス事業所および医療機関での精神保健福祉援助実習の学びを素材に、精神保健福祉士に求められる相談援助の知識・技術を帰納的に考察する。マイクロレベルの面接技術、グループワークの展開過程を踏まえた介入の技術、地域づくりを射程とした相談援助のあり方について、具体的な相談援助の場面を通して、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。



区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
学科専攻	社会福祉調査の基礎	3	○	◎		△		近年、社会福祉の領域において科学的な「根拠」に基づいた政策立案、支援・実践の重要性が言われているが、その価値規範には両義性があり、留意しなければならない側面がある。しかしながら、ソーシャルワーカーには当事者や家族、地域社会が抱えている困難に共感的理解をもって働きかけるとともに、その困難の実態を背後にある構造を可視化させる役割が期待されており、社会調査に関する手法を身につけておくことは必要不可欠といえる。 この授業では、今日の社会福祉の諸課題、当事者らの困難性をマイクロ・メゾ・マクロの視座から調査することの意義と留意点をふまえて、さまざまな社会調査の手法を学ぶ。特に質問紙調査など「量的調査」、そしてインタビュー調査、生活史調査など「質的調査」における調査手法、データ解析の基礎的な手法を学ぶ。
	医学概論	5			○		◎	将来、社会福祉分野を担う者として必要となる人体の構造と機能（解剖学・生理学）、日常診療で経験することが多い一般的な疾病や障害（コモンディーズ）、さらにリハビリテーション、国際生活機能分類、健康のとらえ方について学ぶ。
	保健医療と福祉	3	◎			○	△	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要とされてきたのか、それを歴史のかつ社会構造的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活に何をもちたらすのか。こうした疾病と貧困の悪循環の社会構造的な理解を踏まえて、医療福祉の社会的な使命を本質的に理解する必要がある。 そして、1990年代以降の医療制度改革により、医療ソーシャルワーカーの業務は退院援助に大きく傾斜してきた。退院援助とは何かを社会科学的に明らかにするとともに、現代における医療福祉の対象論と方法論について模索していきたい。
	地域福祉と包括的支援体制1	3	◎	○		△		地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職、地域福祉の推進方法やしくみを学び、住民の主体形成の概念を理解する。
	地域福祉と包括的支援体制2	4			△	◎	○	地域福祉の歴史的経緯と地域福祉政策の動向、地域共生社会の理念、包括的支援体制の考え方等について学ぶ。さらに地域福祉推進のための福祉行政の実施体制、地域福祉計画等々計画行政の意義・目的、多職種多機関協働の意義と役割、実際の展開についても理解を深める。
	ソーシャルワークの理論と方法3	5			△	◎	○	さまざまな事例や社会的課題に対する多様な実践を知ると同時に、ソーシャルワークで用いられる理論やアプローチについて、その成り立ちと内容、具体的な展開方法についてとりあげる。
	ソーシャルワークの理論と方法4	7			△	○	◎	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な支援方法の実際を学ぶ
	福祉行政と福祉計画	3			○		◎	福祉行政と福祉計画に関する基本事項を将来策定に関わることを前提として、学ぶ。1.基本として国と地方自治体の行政と財政の関係を学ぶ（中央省庁、地方自治制度、地公共交通、国庫補助金負担金、国及び地方の税制など）。/2.社会保障・社会福祉の法律と実施体制、運営システムについて、全体の共通事項と生活保護、高齢者福祉（介護保険を含む）、児童福祉、障がい者福祉（総合支援法も含む）など各領域の仕組みを学ぶ。/3.社会福祉における計画行政の登場とその意義、住民参加、当事者参加など策定過程の基本。/4.社会福祉の各法に定められた福祉計画－法定化される経過、法的根拠と内容、厚労省通知などに示された策定内容、ほかの領域の計画との関係/5.ニーズ調査、福祉計画の策定手法、PDCAを含めた点検評価方法。/6.今後の福祉計画の課題。
	福祉サービスの組織と経営	5				○	◎	福祉サービスに係る組織や団体の役割を理解するとともに、福祉サービス提供主体の組織や経営に関する基礎理論について学ぶ。あわせて、その実際について、現状を把握し、課題や可能性を考察する。
	社会福祉の原理と政策1	7				◎	○	社会福祉の原理を理解し、歴史的変遷をふまえて現代の社会問題に対応するために必要な体制のあり方について理解する
	社会福祉の原理と政策2	8				○	◎	福祉政策の概念や理念、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程、福祉政策の動向と課題を踏まえた上での関連施策や包括的支援、福祉サービスの供給と利用過程、日本の福祉政策の特性について理解する
	権利擁護を支える法制度	5	○		△		◎	社会福祉士や精神保健福祉士は利用者支援にあたり、権利擁護実践の担い手として活動を行う。認知症や障がいがあるために、意思表示が十分にできない人々の中には、周囲から理解されず、差別や排除、虐待を受け、あたりまえの日常生活をおくれない人がいる。しかしそのような状況は家庭内や地域の中に埋もれ見えにくい。残念ながら福祉施設内でも起こっている。私たち支援者は鋭い人権意識を持たないと、そのような環境にある人を見つけることができない。 この科目で学ぶ憲法や民法、行政法は直接の支援とは遠く感じ、敬遠しがちであるが、何が権利侵害なのか、人権とは何か、権利擁護とは何かを学ぶために必要な知識となる。 そしてそのような権利侵害に陥りやすい人のための制度として、成年後見制度や日常生活自立支援制度があることを学習し、活用できるようにする。また将来、社会福祉士や精神保健福祉士として自身が専門職後見人となることも視野に入れて学習をすすめる。
	刑事司法と福祉	5	○			△	◎	この授業では、ともすれば他人事になりがちな「犯罪」「犯罪者」とその「更生と再犯防止」「社会参加」について学ぶ。また、触法障害者の問題や知的障害者・精神障害者の冤罪の問題は最近ようやく注目されてきたテーマであり、知的障害、発達障害、精神障害のある人が、どのような経緯で事件を起こし、また再犯を重ねることになるのか。これらを通して、現在の法制度や司法福祉、医療観察法が持つ課題についても学ぶ。 システムとしての更生保護制度は、主に刑事政策上の問題として扱われてきた。しかしその対象となる人々＝加害者と被害者＝は社会的な存在でもある。そこへのアプローチはソーシャルワーク的な視点が不可欠であり、そうした視点を持った加害者の更生、教育・再犯防止、被害者支援、刑務所等の矯正施設での取り組みが非常に重要になってくる。更生保護に関わる課題をこれまでのような「刑事政策」としてだけでなく、「ソーシャルワークとしての更生保護制度」として多面的に捉えた授業を行う。
	アジアの社会と福祉	2	○				○	アジアが民族・宗教・経済発展段階・政治体制などにおいて多様性に富む地域であるという認識に基づき、特に日本、中国、韓国を中心としたアジア社会福祉の生成と発展を探究することを目的とする。社会システム（社会・経済・政治・文化）と社会福祉の導入時期や内容との相互関係を確立し、比較社会福祉の観点からアジア社会福祉の固有性と普遍性の両面を確認していく。
欧米の社会と福祉	3					○	欧米の福祉のありようは、当然、日本のそれとは異なる。それは人権や民主主義といった社会の基底的価値がどれほど深く根付いているのかによっても大きく変わってこよう。この授業では、欧米の福祉を、近現代史における人権の確立とその後の民主主義の生成・発展という観点から位置づけ、その意義を把握することを目的とする。	

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	科目概要		
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている			
学科 専攻	高齢者ケア論	3	◎				△	○	高齢者の生活全般を支援するケアの視点から、介護の理念や対象及び理念について学ぶ。そして、介護に関する相談援助ができるよう、介護過程、介護の技術や介護予防などについて学ぶ。また、終末期ケアや認知症ケアのあり方について学ぶ。 介護現場が理解できるように必要に応じて視聴覚教材を活用する。	
	障害児者ケア論	3	◎				△	○	「障害者の生きる権利と社会福祉援助」というテーマで、障害者が市民としての権利の確立並びにそれにふさわしい生活の質を保障する社会的支援の仕組みを考察する。具体的には、障害者の誕生から高齢期までの各ライフサイクルにおける生活課題と支援の実態を理解した上で、現代における障害者の生きる権利をどのようにとらえるべきなのか、そのためにどのような社会的支援が必要なのか、その中で専門職が果たすべき役割とは何なのかを検討する。	
	児童ケア論	3	◎				△	○	子どもの権利を基盤とする児童福祉の理念と基本的視点、原理・原則を学ぶ。子どもの成長・発達と生活実態・生活環境を理解する。現代社会における子どもと家庭、その生活ニーズを理解し、当事者にとって、ケアとは何か、どのような支援・ケアが求められるのかを考える。関連する法体系や制度についても理解を深める。	
	精神保健福祉制度論	5	○					◎	精神障害者やその家族の置かれてきた状況に対する理解とともに、現在どのような支援が求められるのか、精神科医療・精神保健・障害者福祉・医療観察その他関連法制度について学ぶとともに、現行法制度の限界と課題について考察する。	
	精神医学1	3			○			○	精神疾患のうち、生物学的次元からの理解が重要な疾患について、その症状と治療を学ぶ。	
	精神医学2	4			○			○	精神疾患のうち、心理・社会的次元からの理解が重要な疾患および状態について学ぶ。	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)1	5		◎		○			精神障害者と家族への理解をすすめるとともに、精神保健医療福祉における各機関の機能や役割、多職種連携による実践とそのプロセスなど具体的な支援方法ならびに理論、アプローチについて学ぶ。	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)2	7		○			◎		社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術を修得する	
	精神障害リハビリテーション論	7			◎		○		社会資源の活用意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて、個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する	
	介護概論	4	○					△	介護の理念や対象及び理念について学ぶ。そして、介護に関する相談援助ができるよう、介護過程、介護の技術や介護予防などについて学ぶ。また、終末期ケアや認知症ケアのあり方について学ぶ。 介護現場が理解できるように必要に応じて視聴覚教材を活用する。	
	障害児臨床論	3	◎	○		△		△	障害とは何か、社会的弱者の視点に立って、障害の基本と障害の捉え方について、WHOによって示されたICFの概念を理解する。その上で、個々の障害の実態について、発達障害とその見えざる課題、染色体異常と出生前診断、重い障害とともに生きるということなどのテーマを通じ、当事者の立場で医学的にも社会的にも深く障害を理解する。講義だけでなくグループワークを通じて、自分で考え理解を深めることを重視する。	
	医療福祉論	4	◎						○	本授業では医療福祉問題と医療ソーシャルワークの実践を学ぶ。相談援助活動に必要とされる医療保険制度や保健医療サービス等の社会資源とその活用について事例を元に理解する。そのために現代社会における人々のくらしと健康問題について考える。また医療ソーシャルワーカーの業務や役割を学び、他職種とのチームワーク、地域関係機関との連携、患者・家族・地域住民との協働を理解する。また、医療福祉問題としての被爆者問題や原発被害者の問題から社会福祉と平和・安全について考える。
	福祉と協同の思想	3			○	△		○		授業の副題は「『共生社会』(Inclusive Society)の基本原則」とする。本授業では、福祉思想・協同組合思想の展開をふまえ、共生社会を構成する基本原則を「平和(Peace)」「平等(Equality)」「福祉(Well-being)」として、それらの形成過程を概観し、「共生社会」実現のための諸課題を検討する。
	現代福祉社会論	3	○		△				○	社会福祉における2つの重要関心事である「人間と社会」に対するさまざまな見方や思想を検討し、「もっとも福祉的な人間観・社会観」は何かについて、受講生なりの判断と識見が持てるようにすることを授業の目標とする科目である。 人間観に関わっては、人権とは何か、人間発達とは何か、人間行動に影響を与える社会環境とは何かについて学習する。福祉に影響を与える社会環境としては、政治、経済、社会、文化などを検討する。 社会的弱者が直面している生活問題をいくつか探究することで、日本社会福祉の課題についての理解を深める。
	社会政策論1	3	○						○	現代の労働と生活をめぐる諸問題の社会的背景と要因、かかる諸問題に対応する社会政策の本質と役割、歴史的な変化と今日の到達点などを学び、現代の労働・生活における国家政策の意義と役割について理解を深める。
	社会政策論2	4	○						○	社会政策を構成する賃金、労働時間、雇用、労働安全衛生、労使関係、社会保障などの各制度・政策の具体的な仕組みと運営、現状と課題などの理解を通して、現代社会における社会政策の意義と役割について具体的に捉える。
自治体福祉政策論	3	○						○	社会福祉政策はナショナルな性格をもつが、同時にその展開は地域で行われる。したがって自治体の責任と役割は大きい。また地方分権のなかで自治体独自の福祉施策の展開も期待されている。こうした観点から、法定の福祉政策において地方自治体どのような役割を果たすべきか、また地方自治体は主体的にどのような福祉政策を展開すべきかを考える。その際、基本になるのは住民自治、人権という理念であり、住民の「命とくらし」を守るという首長および職員の仕事である。また、この授業でいう福祉政策は狭義の社会福祉だけではなく、保健・医療、防災、まちづくりを含むものである。さらに自治体福祉政策における公務労働者、専門職の意義について学ぶ。	
医療政策	4	○						○	その時々医療は、医療の提供と利用の仕組みによって影響を受ける。提供体制をどのように整備し、量と質の両面でいかなる医療水準を実現していくのか、国民の健康・疾病状況や生活実態を踏まえて、費用負担やアクセスをどのように見直していくのか、さらには経済や財政の現状から診療報酬・薬価をどう設定していくのか、国民の医療を受ける権利を保障する視点から、政策のあり方を考える。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の見え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
	日本社会福祉史	3	○				○	日本における社会福祉の展開を欧米との相違や、日本固有の特質に留意しながら学んでいく。まずは前近代から近代への移行期における救貧の変化、明治期における公的救貧と慈善事業の展開を取り上げる。そして20世紀以降の感化救済事業から社会事業への変化の中で戦前の社会福祉の原型が形づくられ、戦時下の厚生事業へとつながっていったことを確認する。その後、占領期福祉改革の中で人権や民主主義に基づく社会福祉理念が形成され、それらが高度経済成長期にかけて一定の実現をみたことを学ぶ。
	欧米社会福祉史	3	○				○	イギリスを中心とした社会福祉の歴史の流れを把握し、福祉制度発展の背景にあるさまざまな要因（政治的要因、経済的要因、社会的要因、文化的要因など）とその影響について理解を深める。社会福祉以前の時代と社会福祉が存在した時代にはどのような差異があるのか、救貧の国家責任を史上初めて認めた法律である救貧法の背景と内容を学習する。イギリス以外の国の歴史については、社会保険を最初に導入したドイツの歴史、社会保障システムを初めて作った2つの国、ソビエトとアメリカの福祉歴史を学習する。
	リハビリテーション論	5	○	○				単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」をめざして行われる諸活動の現状について理解する
	心身ケア論	3		○	○		△	社会という環境の中での問題として障害をとらえることができるように、国際生活機能分類への解説を加えながら、いくつかのトピック（出生前診断、発達障害、聴覚障害、重症心身障害）について、学生のみなさんの興味をかきたてられるように授業の構成を工夫したい。
	居住福祉論	3	○				△	住居は衣食住に含まれる「基礎的な人間の必要 Basic Human Needs」の一つである。また、「福祉は住居にはじまり住居におわる」といわれており、住居は人間の福祉の追求においても基盤となるものである。居住福祉学は、われわれが地域社会において住居や施設を基盤とし、安全に安心して暮らすことまた、われわれの福祉を追求するための居住環境を考察する学問である。本科目では、特に居住空間、コミュニティ、政策等に焦点を当てて居住福祉を学び、人が生まれ、成長して社会を担い、やがて高齢になり、人生の終末期に至るまでの期間において、なにが居住福祉をおびやかす、また、どうすれば居住福祉が実現できるかをさまざまな視点から捉え理解を深めることを目的とする。
	国際福祉論	3		○			◎	日本における社会福祉の動向をふまえ、海外諸国の生活実態、社会福祉の制度・実践について多角的に学び、国際的な社会福祉のあり方を広く理解する。
	保育者論	3			○		○	保育士という専門職の役割と倫理、社会的制度的位置づけについて歴史的かつ実践的に理解する。また、保育という営みの特性について理解するとともに、子どもの理解者、共同生活者、文化・自然との出会いの仲介者、省察の実践者などの観点から、保育士という職業の専門性について学ぶ。さらに、連携・協働の意義、資質向上とキャリア形成について理解する。
	子ども家庭支援の心理学	3		○	○			保育士は乳幼児に限らず、学齢児から高齢者までの各ライフコースの対象者とも接する。生涯発達の基礎的知識とともに、現代の家族・家庭を取り巻く社会的諸課題とその影響について当事者の立場にそった理解を確かなものにしていく。
	子どもの理解と援助	3		○	○			子どもを一人の個人として理解していくために、保育士に求められる基本的視点を学ぶ。生活全体との関係から生活の各場面をふり返り検討するための基礎を学び、子どもの視点に立った発達援助の要点を理解する。
	子どもの保健	3	○				○	子どもの心身の健康を図る保健の意義、特に子どもの貧困問題や子ども虐待といった現代社会における社会的な課題を理解する。子どもの発育・発達と保健との関係を知ることで、事故あるいは疾病について学びその予防及び適切な対応を理解する。知識としてのみならず実技や演習を通じて救命救急および予防接種の実践を身につける。現代社会における子どもと家族の心の健康問題・地域保健活動にも視野を広げ、視野広く理解する。
	子どもの食と栄養	5		○	○			食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。そして、食育の基本とその内容、および食育のための環境を地域社会・文化との関わりから理解する。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学ぶとともに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解する。
	子ども家庭支援論	5		○			○	子育て家庭の支援を行うことの今日的意義や目的を、保育士の専門性を活かした家庭支援の基本とあわせて理解する。その際、子育て家庭を取り巻く社会的状況をふまえつつ、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開や関係機関との連携について学びを深めていく。
	保育の計画と評価	5		○	○		◎	保育所の役割・目的を把握し、保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環構造をとらえ、保育の質向上との関係を理解することを通して、保育課程を編成する意義について学ぶ。保育課程の編成と指導計画の作成のあり方について具体的に学ぶとともに、保育の目標、保育内容と領域、保育の時間・空間、条件、多様なニーズ、家庭・地域との連携、子育て支援、職員の協働等について理解する。
	保育内容総論	3		○	○		◎	子どもの発達や生活と、保育内容の歴史の変遷と社会的背景を踏まえながら、保育の全体構造と保育内容について理解する。保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。
	保育内容演習「健康」	3		○	○			「保育所保育指針」における、乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わる感性が育つ」）と1歳以上児の保育の領域「健康」の理解を踏まえ、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。
	保育内容演習「人間関係」	3		○	○			「保育所保育指針」における、乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わる感性が育つ」）と1歳以上児の保育の領域「人間関係」の理解を踏まえ、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。
	保育内容演習「環境」	3		○	○			「保育所保育指針」における、乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わる感性が育つ」）と1歳以上児の保育の領域「環境」の理解を踏まえ、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。



区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
	保育内容演習「言葉」	3		○	○			「保育所保育指針」における、乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わる感性が育つ」）と1歳以上児の保育の領域「言葉」の理解を踏まえ、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。
	保育内容演習「表現」	3		○	○			「保育所保育指針」における、乳児保育の3つの視点（「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わる感性が育つ」）と1歳以上児の保育の領域「表現」の理解を踏まえ、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。
学科専攻	乳児保育1	3	○		◎			乳児保育の歴史と今日的意義を踏まえた上で、多様な場での乳児保育の現状と課題を理解する。0歳児～2歳児（出生から3歳半ころまで）の子どもの発達のみちすじに沿った保育内容・方法についての検討していく中で、乳児保育にあたる保育士の専門性に対する理解を深めていく。
	乳児保育2	5		○	○			3歳未満児の発達を踏まえつつ、子どもの生活や遊びを援助していく際の留意事項や要点を学んでいく。具体的には、生活の流れ、保育の環境、安心・安全を保障する体制、見通しをもった計画の作成などの点から理解を深める。
	子どもの健康と安全	5		○	○	◎		子どもの保健での学びと運動させながら、身体的、精神的、社会的に健康な子どもたちの状態とはどうあるべきなのかを理解する。また、安全面では、発達理解に基づく環境整備などを通じて、事故の予防や安全の確保に関する知識を身につける。さらに、現代社会における心の健康問題・地域保健活動にも視野を広げ考察する。
	障害児保育	3	○		○			権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には、障害の種別やその特性の理解はもちろんこと、何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ、「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
	社会的養護2	5	○	◎		○		社会的養護を必要とする子どもの理解に基づき、その実践の全体像を具体的に理解する。その際、施設養護および家庭養護の実践、計画・記録・自己評価の実践について学び、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解を深める。
	子育て支援	3		○	○			子育て支援の意義や実践における基本的な視点について学ぶ。現代の子育てをしている保護者をとりまく種々の状況を理解した上で、具体的な支援の展開過程を具体的な実践（内容・方法・技術）を通じて実践的な理解を深めていく。
	保育内容の理解と方法1	2			○			子どもの心身の発達と音楽表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と音楽表現を結び付ける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
	保育内容の理解と方法2	3		○	○			子どもの心身の発達と造形表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、身近な自然やものの色や形、感触やイメージに親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と造形表現を結び付ける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
	保育内容の理解と方法3	2			○			子どもの心身の発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術を学ぶ。具体的には、見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊びにみる子どもの経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と身体表現を結び付ける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
	保育内容の理解と方法4	3		○	○			子どもの心身の発達と絵本、紙芝居、素話、ペープサート、パネルシアター等に関する知識と技術を学ぶ。子どもが自ら児童文化等に親しむ経験ができる保育環境づくり、それらの経験に基づく表現活動と児童文化等とを結び付ける遊びに展開するために、習得した知識や技術を通して模擬保育をすることで省察を深めていくことを目指す。
保育実践演習	8	△	◎	△	○		△	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心にした学びのふり返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
関連	心理学と心理的支援	3		◎	○			人間の諸側面を心理学の観点から理解するにあたり、基礎となる理論や研究を紹介していく。これらの学びを介して、心理学の枠組に基づいた人間理解を深めていく。
	社会学と社会システム	3	◎	○				社会学は、日常生活の中で「あたりまえ」だと思っている自明の事実を、まず疑ってみることからはじまる。本講義では、男女、家族、メディア、教育、宗教などいくつかの社会学の領域をとりあげて、具体的現象を検討しながら人間関係や世の中のしくみを読み解いていく。
	介護技術指導	5				○		介護を必要とする方に対して、自立支援の視点に立った安全で安楽な介護技術、また介護者にとっても負担の少ない基本的な知識及び技術を習得する。介護技術は、単にできない部分を補うテクニックではなく、介護を受ける側と行う側との相互関係を通して、生きる意欲を引き出し、生活を支えるための実践の技術である事を学ぶ。演習では、介護を受ける側を体験する事で、安全で安楽な介護技術の重要性を理解するとともに、立ち上がるなどの日常生活動作について分析し、根拠に基づいた介護技術を身につける。
	学童保育概論	3		◎	○			子どもと家族のおかれている状況、社会的背景をふまえ、学童保育の歴史と施策・制度の変遷を理解する。現代社会における学童保育の意義、学童保育の目的と役割について学ぶ。子どもと家族、家庭の生活ニーズを理解し、学童保育における支援内容を考察する。基本的人権や、社会正義、発達に関する考え方や価値を理解し、学童保育の専門性を学ぶ。
社会福祉特別講義	7				○		◎	社会福祉基礎構造改革により、社会福祉・社会保障は市場化・営利化し、社会福祉労働は変容してきた。そこで本講義では、本学部専任教員がオムニバス形式で講義を行い、社会福祉学の一分野・一領域を深めるのではなく、総合的な視点から社会福祉学を深める。その内容は、社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の資格関連の専門科目としてではなく、ソーシャルワーク、社会福祉政策、社会福祉運動など多岐にわたる。そして将来、社会福祉の仕事に携わる上で必要とされる社会福祉労働とは何か、社会福祉労働の専門性とは何かについて学ぶ。



区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	科目概要	
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている		
関連	ピアノ1	2		○	○			保育において、子どもの音楽に対する感性と表現を豊かにするために、保育者の表現技術を習得する。具体的には、保育現場で求められるピアノでの表現技術を習得する。本科目はピアノ初心者向けの選択科目として位置づけ、ピアノに慣れ、読譜と基礎的な演奏力をつけることを目的とする。	
	ピアノ2	3		○				保育において、子どもの音楽に対する感性と表現を豊かにするために、保育者の表現技術を習得する。具体的には、保育現場で求められるピアノでの表現技術を習得する。本科目は保育者に求められるピアノ演奏、弾き歌いの演奏力をつけることを目的とし、主に保育現場で歌う季節のうたを中心に実践力を身に付ける。	
	ピアノ3	4		○				ピアノ2を踏まえて、さらに高度なピアノ演奏力を身に付ける。就職試験とその後の実践において活用できる簡易伴奏方法の習得、ピアノを用いた音楽表現指導法など、実践において応用可能な演奏方法について学ぶ。主に保育現場で歌う季節のうたやその他の童謡を中心にレパートリーを増やすことを目的とする。	
	仏教保育論	3	◎	○			○	仏教精神にもとづき、いのちを大切に、慈しみあふれる保育実践の在り方について考える。保育者として仏教精神を学ぶことの意義、自然や大地の恵みに生かされていること、周りの人たちのおかげで生かされていること、命を尊重し思いやりをもち、助け合うよさや感謝の気持ち等を育むなど仏教保育が保育実践を豊かにするものであることを学ぶ。また、子どもが「ののさま」や仏教の教えにふれ、身近に感じその教えに触れることができる教材の研究、年間の仏教保育の計画など実践的な内容について学ぶことで、仏教保育を深める。	
	保育内容特別演習1	3		○			○	「保育の内容と方法」および「保育内容演習」各科目における学びを経て、保育内容を総合的に捉え、実践的に理解を深める。本科目では、地域とのつながりを視野に入れ、実際の地域交流を通して、保育内容についてより広い視点から学んでゆく。	
	保育内容特別演習2	7	○	○	○		◎	「保育の内容と方法」および「保育内容演習」各科目における学びを経て、保育内容を総合的に捉え、実践的に理解を深める。本科目では、地域とのつながりを視野に入れ、実際の地域交流を通して、保育内容についてより広い視点から学んでゆく。現在の子育てにおける諸課題について整理し、地域の様々な資源を活用しながら、子どもと保護者と保育者と地域がつながりを豊かにするための方法について、実践を通して考察する。	
	国際社会福祉特殊講義	1		○	○			諸外国における社会福祉の歴史・現状について理解する	
	国際社会福祉研修1	1		○	○			海外の社会福祉の現状について現地へ赴きフィールドワーク等を通して実践的に学ぶ	
	国際社会福祉研修2	3					○	○	日本以外の国の社会福祉現場の見学、現地のソーシャルワーカーあるいは社会福祉を勉強する学部生との交流を通じて、他国の福祉事情を理解するとともに日本社会福祉の特徴を理解すること。より広い視野、国際的な視野を持って社会福祉を観察する目を持たせること。他国の福祉と日本の福祉を比較し、各国の社会福祉の特徴をつかみ取る能力を持たせることをねらいとする。
	社会福祉総合実習	5		○	◎				社会福祉施設等の実践現場における社会福祉、介護等に関する体験的な学習を通して、「福祉」科目を教育することができる知識や技術を総合的に習得する。社会福祉サービスの現状や利用者の理解や適切な人間関係を学び、また施設職員の援助関係や具体的な介護サービス提供とチームケアを通じて医療・保健・福祉の連携やあり方を学ぶ。
	社会福祉総合実習指導	5	◎		○				高校で社会福祉を教育できる力を養うために行う実習にむけた基礎的学修内容の確認、実習計画をたて、それに基づいた実習を実施することができるよう指導を行う。
	職業指導	3		○					職業とは何か、職業選択に導くとはどういうことかを考察する科目である。もし科学的な職業適性検査が作成され、実施されたとしても、その適正にみあった人数分の職業を社会が準備することはありえない。こうした矛盾のなかで行われるのが職業指導である。そうした職業指導の意義や課題について考察することを目的とする科目である。
	教育心理学	2	○	○					教育現場で生じている学習に関わる諸問題の理解や解決に、教育心理学的知見がどのように寄与しているのかを考察する。具体的な事実やエピソードを交えつつ、教授方法や発達援助方法の妥当性や検討課題を幼児期・児童期・思春期・青年期の発達を踏まえて考える。
	発達心理学	3	○	○					人間には個人差があり一人ひとりの考えも違う。一方で、人間が発達していく過程には一定の共通したものがある。この両面を踏まえて対象を捉えようとした時に、初めて一人ひとりの発達が見えてくる。本講義では、人間を発達的に理解していくための要点はもちろん、発達の視点に立った具体的な支援について、個人だけでなく集団や社会との関連も踏まえて扱っていく。
	日本史概論	1		○					大学で学ぶ歴史学はこれまでの歴史の学習とは大きく異なるだけでなく、現在持っている歴史の知識も、これから始まる専門的な学修を考えた時に、決して十分とはいえない。この講義では、歴史学の基本的な考え方・方法に基づき、担当教員が日本史の各時代を理解するうえで重要と考えた事象を取り上げ講義する。講義の内容を理解するなかで、今後の専門的な学修に際して基礎となる日本史の知識を習得するとともに、学問としての歴史学の基本的な考え方や方法を理解する。
	日本史特論	2		○					日本史概論の学修を通じて日本史各時代の最低限の知識を身につけ、歴史学（日本史学）の基本的な考え方・方法の一端に触れた。本科目では、もう少し専門的な内容に踏み込み講義する。時代によって取り上げる問題や内容は異なるが、日本史の各時代を理解するうえで基礎となる重要事項であることに変わりはない。講義の内容を理解し知識を広めることに加え、専門課程での学修を見据え、複数の事項を関連づけたり、背景を考えたりするなどして、歴史学の考え方や方法の基本となる思考に触れてみて欲しい。
	東洋史概論	1		○					本講義では、東洋の歴史、とりわけ中国の歴史について、古代から近代まで大まかな流れに沿って学修する。中国は、古代から近代にいたるまで、日本の歴史と深いかわりを持ってきたが、その歴史や、培われてきた社会・文化は、日本とまったく異なる。中国における王朝ごとの基礎的な歴史用語の解説を進めながら、その王朝の歴史や文化の特徴を学ぶ。また王朝の移り変わりを理解し、中国史の概略を学び、歴史の多様性を学修する。
	西洋史概論	1		○					グローバルな関係性が張り巡らされた現代社会のなかで、西洋文明の理解は日本人にとって不可欠である。本講義では、その中核をなすヨーロッパ文明について、その形成期に重点をおきながら通時的に歴史を概観する。そうすることで、そこに生きた人びとの文化やものの考え方の特徴を学ぶ。加えて、講義中に紹介される史料の解説を通して、各時代と社会の具体的なイメージをつかみ、他者たるヨーロッパに対する理解を深める。

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々と組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
区別	地誌学1	3			○			地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義では、様々な地理学の議論を導き、日本や世界各地の自然と文化の相互作用について学ぶことで、グローバル化する現代世界でそれぞれの地域を単純化することなく理解する能力を身につける。
	地誌学2	4			○			地誌学とは、自然現象（地形・気候・水文など）と人文現象（都市・経済・歴史・交通など）の相互関係を総合的に考察し、地域的性質をとらえる地理学の一分野である。この講義ではある地域の特徴を自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解した上で、現在の世界的な課題や国際情勢の中に適切に位置付ける視点の獲得を目指す。
関連	自然地理学1	3				○		自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野である。この講義では、日本や世界各地の地形、気候、水文、植生、土壌等に関する自然地理学の基礎知識を正しく理解し、地球上の自然環境を総合的・有機的に説明する能力の獲得を目指す。
	自然地理学2	4				○		自然地理学とは、地球上の自然環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野であるが、環境の要素には人間もまた含まれる。この講義では、防災や持続可能社会などといった環境との関わりで人間が直面する問題を通じて、日本や世界各地の自然環境と人間との相互作用的関係を理解し、説明する能力の獲得を目指す。
	人文地理学1	3		○	△			人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、分布、移動や生産、流通、消費、さらに地域構造といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	人文地理学2	4		○	△			人文地理学とは、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を論理的に考察する地理学の一分野である。この講義では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために、場所に関わる宗教、生業、文化、あるいは空間上に現れる社会的差異といった事象に焦点を当てて学んでいく。
	法学概論1	1	○				△	人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、それが「法」と呼ばれるようになる。この授業では、私たちの生活に対するルールとして機能する基本的な「法」を紹介する。その上で、現行法制度の紹介にとどまらず、その限界事例での法的な考え方について解説したい。
	法学概論2	2	○				△	人が集まり、社会と言う集団が作られるとき、そこにはルールが発生し、「法」と呼ばれるようになる。そうした「法」により規律される空間においても限界事例が生じる。このような限界事例において、憲法上の権利がどのように機能しうるのか、という点について取り扱う。もっとも、授業時間の制約上、すべてを網羅的に取り扱うことはできないが、できるだけ身近な問題を取り上げながら授業を進める予定である。
	国際政治学	1		○	○			国際社会における国家の政策や安全保障などの国際政治の歴史を踏まえ、国際政治学の概念や理論を学ぶ。また、これらを踏まえた現代の国際問題を考察する。
	社会学概論	1	○	○	△			多様な形で現象する現代社会の出来事を疑い、捉え直し、社会学とは何か、何が出来るかを考える。 講義では、社会学における歴史的展開を概観し、いくつかの社会学の領域をとりあげて、具体的な現象を検討しながら人間関係や世の中のしくみを読み解いていく。
	経済学概論	1		○	○			経済学の基礎理論、歴史をふまえて、日本経済の現状と経済政策を理解する。 授業では、戦後復興から高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊に至る日本の経済システムの特徴や、人口減少や高齢化が進む日本の現状を把握する。また、経済のグローバル化の進展と今日的課題を考える。経済とは何か政府や企業の役割といった幅広い領域にかけて、経済全般を見る目を育てていく。
	哲学概論	2	○	○	△			哲学は一見、抽象的な議論のつらなりであるが、議論は日常の経験に根ざしている。哲学の主要な議論を生活空間のなかから理解していくことがこの講義の目的である。20世紀の現象学や解釈学の立場を軸としながら進みたい。①哲学と日常性②物との関わり③人間と空間④歴史と風土
	宗教学概論	1		○	○			宗教の本質については様々な見解が見られるが、これらを紹介しながら分析する。近代哲学はカントによる魂の実体性の否定によって、一つの頂点を迎える。この、キリスト教神学による魂不滅の信仰への痛打が、どう受け止められたかを中心に考察を進めていきたい。①宗教の定義②物との関わり③人間と空間④歴史と風土
	倫理学概論	1				○		西洋では多様な倫理思想が生まれたが、ここでは19世紀、デンマークの哲学者、ケルケゴールの思想を分析する。キリスト教神学や近代哲学がどのように彼の思想に関連するかを考察しながら、現代におけるその有効性を問うてみたい。①倫理学とはなにか②ケルケゴールの生涯と著作③道徳哲学者としてのケルケゴール④近代哲学のなかでの位置づけ
	社会心理学	3		○	○			社会心理学は、人間の思い、感情、行動が他人という存在によって異なる形で現れることを究明するための科学的アプローチである。人は個人として社会を生きるとともに、他者との社会的関係やその関係を規定する様々な規範・文化との関係で、実際の行動を起こしている。授業を通して、社会学と心理学の境界科学としての社会心理学を理解することに努める。そのために、私たちが日常生活の中で普段、疑問に思うような身近な「素材」を研究の対象とする。身近な物事に対する再考を通じて、社会の中に存在する「わたし」の意味を探る。
	日本仏教史（仏教伝来～平安）	1		○	○			仏教の伝来より平安時代末までの仏教の歴史や思想展開について講義していく。 ①仏教伝来、②飛鳥時代、③奈良時代、④平安時代初期、⑤平安時代中期、⑥平安時代末期、について概説する。
日本仏教史（鎌倉以降）	2		○	○			鎌倉時代以降の仏教の歴史や思想展開について講義していく。①鎌倉時代②室町時代③江戸時代④明治以降、について概説する。	
中国仏教史	1		○	○			仏教が中国に伝来して、中国人社会にどのように受容・展開されていったのかを概説していく。①後漢・三国②両晋③南北朝④隋・唐⑤五代・宋⑥元・明・清⑦現代、について概説する。	
ソーシャルワーク実習指導1	4						配属実習の事前学習として、社会福祉援助の専門知識、援助技術及び実習領域の基本的知識を深め、ソーシャルワーク実習の意義・目的を理解し、自己の問題意識を醸成させる。	
ソーシャルワーク実習指導2	5						ソーシャルワーク実習に臨むにあたって、福祉現場の現状を理解し、実習領域に関する基本的知識を習得する。	

自由科目のため、  
以下、該当DPなし

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	科目概要
			基本的人権や社会正義、発達の考え方に基づく福祉の価値を理解し、多様な状況におかれている当事者を共感的に理解し、実践に真摯に向き合うことができる	豊かなコミュニケーション、他者や異なる集団を理解し共感できる力およびニーズを把握する力を基礎に、社会問題・生活問題を解決・軽減する専門的技術を用いられるようになる	社会のさまざまな領域において、当事者が主体性を発揮できるよう援助し、人間らしい生活を実現するための実践ができる	主体的に多様な人々や組織と協働して、全ての人が安心してともに生活ができ、平和でよりよい社会を創り出す知恵と実践力を身につけている	社会福祉・保育の基本的な役割や構成を理解し、人間の行動や社会構造に関わる知見に即して福祉あるいは保育の制度と実践を体系的に理解できている	
関連	ソーシャルワーク実習指導3	6						ソーシャルワーク実習の事後学習を通して、実習での学びや気づき、課題を整理する。それを踏まえて、今後の学習課題を明らかにしその成果を報告書としてまとめる。
	ソーシャルワーク実習1	4						社会福祉施設・機関において、実習指導者の指導のもとで実際の援助に携わりながら、援助実践に必要な基本的知識・技術を理解する。
	ソーシャルワーク実習2	5						社会福祉施設・機関において、実習指導者の指導のもとで実際の援助に携わりながら、ソーシャルワークに求められる実践能力を習得する。
	精神保健福祉援助実習指導1	5						個別および集団指導を通して、医療機関や施設等の機能や役割および精神保健福祉援助に必要な知識、技術等について学修する。授業全体を通して精神保健福祉援助実習の枠組みを理解するとともに、各自の実習テーマと計画書の作成を行う。
	精神保健福祉援助実習指導2	7						個別および集団指導を通して、事業所実習を振り返り、自身の課題の整理とともに医療機関での実習にむけて準備を行う。医療機関実習の事前学習として病院見学を予定しており、自身の実習計画に反映させる。精神保健福祉士として求められる専門的知識、倫理について理解するとともに具体的な実習場面を想定した心構えや実際の対応、記録法等を学修する。
	精神保健福祉援助実習指導3	8						精神科等医療機関実習の学びをグループワークやピアスーパージョンで分かち合う。実習評価や指導者からの指導内容をもとに今後の自己課題について考える。また、学生主体の合同の実習報告会や、報告集の作成を行う。
	精神保健福祉援助実習1	6						障害福祉サービス事業所等における現場実習
	精神保健福祉援助実習2	7						精神科医療機関における精神保健福祉援助実習
	保育実習1A	5						保育所での実習を通して乳幼児の理解を深める。保育所保育についてこれまで学んできたことを基礎に、実習のなかで観察し体験した諸事実を考察する。また、保育実践の体験を通して、保育士の業務を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことを理論化できるように整理する。
	保育実習1B	5						保育所以外の児童福祉施設での実習を通して乳幼児の理解を深める。児童福祉施設についてこれまで学んできたことを基礎に、実習のなかで観察し体験した諸事実を考察する。また、児童福祉施設における保育実践の体験を通して、保育士の業務を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことを理論化できるように整理する。
	保育実習指導 1（事前）	5						実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学習する。また、保育所および保育所以外の児童福祉施設についての理解を深め、実習にむけての心構えを形成する。
	保育実習指導 1（事後）	6						「保育実習1A」「保育実習1B」の実習終了後、実習簿をもとに実習の振り返りを行うことにより総括と自己評価を行い、自らの課題を明確化する。
	保育実習 2	7						保育所での実習を通して保育実践について理解を深める。保育所保育についてこれまで学んできたことや、「保育実習1」で学んだことを基礎に、実習を通して観察・体験した保育実践について考察する。また、「保育実習1」の学びを振り返り、自己の課題を明確にした上で実習に臨み、保育士の業務・役割についての理解をさらに深める。
	保育実習 3	7						保育所以外の児童福祉施設での実習を通して保育士の仕事について深める。児童福祉施設についてこれまで学んできたことや、「保育実習1」で学んだことを基礎に、児童福祉施設で働く保育士の仕事について考察する。また、「保育実習1」の学びを振り返り、自己の課題を明確にした上で実習に臨み、保育士の業務・役割についての理解をさらに深める。
保育実習指導 2	7						実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容を踏まえ、保育実践力を培う。保育の計画と観察、記録、自己評価等を踏まえ保育の改善について実践や事例を通して具体的に学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導の中で、総括と自己評価を行い、自らの課題を明確化する。	